

公益社団法人 私立大学情報教育協会  
平成 23 年度 第 6 回 CCC 数学グループ運営委員会 議事概要

- I. 日時 : 平成 23 年 12 月 15 日 (月) 18:00~20:00  
II. 場所 : 公益社団法人 私立大学情報教育協会 事務局会議室  
III. 出席者 : 平野委員、井川委員、山崎委員 (ネット参加・記録担当)、  
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、平田職員

IV. 検討事項

1. 学士力 (コアカリ) の実現に求められる ICT 活用 (授業モデル中間まとめ) について

① 両案全体に対するその他意見について

- ・ (大学以前の教員の問題点により) 学生に「考える習慣」が欠如していること、および、ICT 活用の有効性に対する疑問が指摘されていたが、これについては、モデル案は「5 年先」を考慮してのものであることから、モデルには反映しないことにした。
- ・ 「モデル案としては特に問題点はない」としながらも、学生の興味関心の維持を懸念されていたが、数学として取り上げる内容についての感想であるため、モデル案の修正には及ばないと判断した。
- ・ 学士力の到達目標に「性質を読み取る力」が欠落している、という指摘は重要と考え、学士力の到達目標の 2. で「自然・社会現象を数量化し、…」となっている部分を、「自然・社会現象を数学的に捉え、…」と変更した。

② モデル案 1 について

- ・ 学力の低い学生が多い現状では、この案が妥当であるという趣旨のもので、学力が極端に低い学生については、ほとんど効果は期待できないのではという懸念もあったが、ほぼ賛成とみなした。
- ・ モデル案の対象が教養教育に対するものなのか専門教育に対するものなのかの視点が明確でないため判断できない、ということと、数の近似・概数に関する概念を重視すべきという指摘があった。前者については、「学士力の到達目標」の 1~3 が、ちょうどそれぞれ、教養としてのレベル / 専門教育の基礎レベル / 専門教育の応用レベルに対応するのであるが、そのことが明確に分かるように見出しをつけることにした。後者については、到達度として学生が身につける能力の ① 「数の概念を体系的に例示できる」→「数のいろいろな概念をその関係とともに例示できる」、② 「社会生活に現れる比をその意味とともに例示できる」→「社会生活に現れる比や概数の意味を理解し、計算できる」と変更することで対応した。
- ・ 障害者に対応する視点が欠けており賛同できない、というものであったが、今回のモデルの趣旨と直接関係がないと判断した。

③ モデル案 2 について

- ・ 「学士力の到達目標」の 2 番にある「図形や記号」は「図や数式」とするべきであるという点については、指摘のとおりモデルを修正した。
- ・ 中間まとめ案 1 の 1. 学生が身につける能力の項目を、内容は変えずに統廃合(「累乗で増える数」に関するものと「対数」に関するものを 1 つにまとめた)し、6 つだった項目数を 5 つにした。また、「例示する」となっていた各文末を、①以外は「例示し、計算できる」に変更した。

2. 今後の検討スケジュール

- (1) 意見をいただいたサイバー F D 研究員の方々には、お礼をつけて改正案をメールで返送すること確認した。

(2) 教育改善モデルの到達度評価の方法をモデルに盛り込むことを確認し、(連携教育を前提として) 授業の振り返りをどのような方法で行うか、そのような連携がどれだけできたかを評価する方法、さらに発展して、基礎から専門へ進んだ後で、常に基礎に戻って振り返り確認できる仕組みと連携について、従来と異なった授業の「評価」として表現できるよう、今年度内の委員会で検討することにした。

(3) 「教育改善モデル実現のための教員の教育力については、年度末に検討することとした。

### 3. 次回委員会

次回は、1月30日(月)17:00より開催し、上記(2)到達度評価の方法、(3)教員の教育力について検討を行うことにした。